

大集合!

# 幕末福井の偉人たち

- 会場 2階 企画展示室
- 会期 平成30年7月20日(金)～8月26日(日)
- 休館日 8月6日(月)

本年は明治維新150年の節目にあたることから、維新ゆかりの史蹟や人物への関心が高まっています。特に、福井藩は松平春嶽や橋本左内をはじめとして維新に貢献した人物を数多く輩出しており、日本の中でもひとときわ大きな存在感を放つ雄藩でした。その影響力は、政治はもちろんのこと、教育や産業など多くの分野にわたり、活動範囲は国内に限らず太平洋をこえた先のアメリカにも及んでいました。当館には、そうした偉人たちにゆかりのある遺品が数多く収蔵されています。

そこで、本展では幕末維新时期に活躍した福井の先人たちの中から10人をピックアップし、彼らの経歴やエピソードを当館所蔵の遺品を交えながら紹介します。また、番外編として、当館が所蔵する西郷隆盛や勝海舟に関する資料をあわせて展示し、福井藩との交流の様子を紹介します。

彼らの業績を通じ、福井藩が維新の実現と近代化の発展に大きく貢献したことを再認識する機会となれば幸いです。

## 第1章 藩の改革とその思想 ～福井を変えようとした人びと～

江戸時代後半の日本は、国内外で大きな変化を迎えた時期でした。国内では、天明の飢饉と天保の飢饉という二つの大きな飢饉により、農村は荒れ果て、都市へと人口が流出したことで、都市と農村の双方で社会不安が深刻化していました。また、外に目を向けると、交易を求める西洋諸国の船が日本の近海に現れるようになり、時には島や沿岸で西洋船との小競り合いも発生するなど、国際的な緊張が高まっていました。

この時の福井藩も同様の問題を抱えていました。特に財政の悪化、教育システムの未整備、医療の立ち遅れは明らかでした。その困難な状況を克服するため、風紀の引き締めや新しい知識の導入など、思い切った改革が唱えられていくようになります。

16代福井藩主松平春嶽(慶永)の教育係となったことをきっかけに頭角を現したのが、中根雪江です。中根は、鈴木主税や浅井八百里らの藩主側近や、平本平学ら改革派の藩士とともに、質素儉約を中心とした厳しい財政緊縮策をたびたび実施し、苦しい財政の立て直しを目指しました。

また、この時期から福井藩では西洋の科学技術を積極的に受け入れるようになります。31歳にして漢方医学から蘭方医学に転じ、福井藩きっての蘭方医となった笠原白翁は、その最前線にいた人物と言えるでしょう。白翁には雪江も注目しており、その活動を支援しています。

横井小楠は、安政5年(1858)に福井藩の政治顧問として熊本から招かれ、安政期から始まる改革の理論的指導者として活躍しました。彼の「政教ごとく倫理によって生民のためにする」(『国是三論』)という考え方は、由利公正など若い福井藩士に大きな影響を与えることとなります。



なかね せつこう  
**中根 雪江**  
1807(文化4)～1877(明治10)

松平春嶽の政治活動を支えた側近



よこい しゅうざん  
**横井 小楠**  
1809(文化6)～1869(明治2)

幕末の日本を代表する政治思想家



かさばら はくおう  
**笠原 白翁**  
1809(文化6)～1880(明治13)

天然痘と闘った福井の蘭方医

出品目録						
No.	人物	資料名	員数	年代	所蔵	会期
はじめに						
1		松平春嶽肖像画 (佐々木長淳筆)	1額	明治17(1884)年9月	福井市春嶽公記念文庫	通期
2		橋本左内肖像画 (島田墨仙筆)	1幅	大正3(1914)年以降	当館蔵	通期
第1章 藩の改革とその思想 ～藩を変えようとした人びと～						
3	中根	中根雪江建白書(写)	1冊	明治時代	当館蔵	通期
4		中根雪江筆「橋本左内伝夢物語」	1冊	安政6(1859)年12月	福井市春嶽公記念文庫	通期
5		中根雪江肖像画(波々伯部金洲筆)	1幅	明治23(1890)年2月11日讀	越葵文庫	通期
6-1		短刀 銘 元治元年冬至宗有作/おもひよこしまなし	1口	元治元(1864)年冬至	福井市春嶽公記念文庫	通期
6-2		花梨魚尽鞘短刀拵	1具	江戸時代末期	福井市春嶽公記念文庫	前期
7	横井	横井小楠銅版肖像画	1葉	明治22年2月23日贈	福井市春嶽公記念文庫	通期
8		富国・強兵・士道 越前国是三条	1冊	江戸時代末期	個人蔵	通期
9		横井小楠宛松平春嶽書簡	1通	文久2(1862)年5月27日	個人蔵	通期
10-1		刀 無銘 初代康継	1口	文久元(1861)年拝領	個人蔵	通期
10-2		附 白鞘(横井小楠鞘書)	1口	江戸時代末期	個人蔵	通期
11	笠原	笠原良策筆「たとへわれ云々」の和歌短冊	1枚	[嘉永2年9月晦日]	当館蔵	通期
12		牛痘問答(自筆本・刊本)	2冊	嘉永3(1850)年春	当館蔵	通期
13		海防私策	2冊	江戸時代後期	当館蔵	通期
14		堆朱カメラ	1台	江戸時代後期	当館蔵	通期
第2章 政局への挑戦 ～国を変えようとした人びと～						
15	三国	笑草	1冊	安政5～6(1858-59)年	当館蔵	通期
16		梅花山鶏模様蒔絵見台	1基	天保13(1842)年	個人蔵	通期
17		三国幽眠宛松平春嶽書簡案	1帖	安政5(1858)年3月18日	福井市春嶽公記念文庫	通期
18		三国幽眠筆「橋上臨湖面～」の書幅	1幅	明治14(1881)年頃	当館蔵	通期
19-1	春嶽	ドイツ製望遠鏡	1点	19世紀	福井市春嶽公記念文庫	通期
19-2		ドイツ製双眼鏡	1点	19世紀	福井市春嶽公記念文庫	通期
20		勅書写	1通	文久2(1862)年6月	福井市春嶽公記念文庫	通期
21		虎豹変革備考	1冊	文久～元治期	福井市春嶽公記念文庫	通期
22		松平春嶽筆「我無才略云々」の書幅	1幅	19世紀	福井市春嶽公記念文庫	通期
23	左内	橋本左内着用の袴	1対	江戸時代後期	当館蔵	通期
24		村田氏寿宛橋本左内書簡	1巻	安政4(1857)年11月28日	福井市春嶽公記念文庫	通期
25		波頭鯉蒔絵硯箱	1合	江戸時代末期	福井市春嶽公記念文庫	通期
26		橋本左内筆「雪中松柏愈蒼々」の詩幅	1幅	安政5月(1858)年10月	福井市春嶽公記念文庫	通期
番外編 福井と関わった幕末の偉人たち						
27	西郷	橋本左内宛西郷隆盛書翰	1通	安政5(1858)年1月19日	越葵文庫	通期
28		伊地知壯之丞宛西郷隆盛書簡	1幅	慶応4(1868)年7月7日	福井市春嶽公記念文庫	通期
29		西郷隆盛筆「世上毀誉輕似塵～」の書幅	1幅	明治時代初期	福井市春嶽公記念文庫	通期
30	勝	新政府参与宛勝海舟嘆願書	1巻	[慶応4(1868)年]1月	越葵文庫	通期
31		『海軍歴史』	9冊	明治22(1889)年刊	福井市春嶽公記念文庫	通期
32		閑窓乘筆	1冊	明治16年(1883)年11月26日	福井市春嶽公記念文庫	通期
33		勝海舟「大船のたゆたふ云々」の和歌賛・碗の図幅	1幅	明治時代	福井市春嶽公記念文庫	通期
第3章 産業化と国際化 ～近代化を目指した人びと～						
34	由利	正月十四日 桜門前馬威しの図(『福井藩十二ヶ月中年中行事絵巻』)	1巻	江戸時代後期	福井市春嶽公記念文庫	通期
35		『子爵由利公正伝』	1冊	昭和15(1940)年刊	当館蔵	通期
36		太政官札	2枚	明治時代初期	当館蔵	通期
37		「五箇条御誓文」の幅	1幅	明治時代末期	個人蔵	通期
38		「目下商工業ヲ補助スルノ説」(山田卓介宛由利公正書簡)	1通	明治28(1895)年2月28日	当館蔵	通期
39	佐々木	橋本左内筆「一代儒宗」云々の詩ならびに佐々木長淳筆「油断大敵」貼交ぜの幅	1幅	江戸時代末期	当館蔵	通期
40		〔製造局の風景〕(『福井温故帖』)	1冊	明治時代	越葵文庫	通期
41		アメリカ臨時軍務大臣プラントの紹介状写し	1額	1867年8月22日	福井市春嶽公記念文庫	通期
42		佐々木長淳宛岩倉具視・大久保利通書簡幅	1幅	【岩 倉】(明治11年)2月6日 【大久保】(明治11年)2月10日	当館蔵	通期
43	日下部	日下部太郎肖像写真	1枚	明治時代初期	当館蔵	前期
44		ラトガース大学クイーンズビルディング	1額	当館蔵	当館蔵	後期
45		ヴァン＝アースデール宛日下部太郎書簡	1通	1869年7月9日	福井市蔵	通期
46		ゴールド・キー	1額	昭和15(1976)年	当館蔵	通期
47		日下部太郎墓碑写真	1枚	当館蔵	福井市春嶽公記念文庫	通期
48	グリフィス	印刷写真 グリフィスと子弟たち	1枚	明治3～4年頃	当館蔵	通期
49		グリフィス雇用契約書	1式	明治3(1870)年12月6日	福井市春嶽公記念文庫	通期
50		化学筆記	1冊	明治4(1871)年12月	当館蔵	通期
51		グリフィス宛村田氏寿書簡	1通	明治4(1871)年12月8日	福井市春嶽公記念文庫	通期

※福井市春嶽公記念文庫は当館蔵、越葵文庫は当館保管の資料です。

- 展示期間 前期/7月20日(金)～8月5日(日)  
後期/8月7日(火)～8月26日(日)

展示解説シート No.115

平成30年7月20日発行

## 福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489

担当: 山田裕輝、印牧信明/印刷: 白崎印刷株式会社

### 関連イベント

#### ギャラリートーク(担当学芸員による展示解説)

- 日時/7月21日(土)、8月11日(土)、8月25日(土)  
すべて14:00から50分程度 ※観覧券の購入が必要となります

### 次の展示

皇室と越前松平家の名宝 | 9月22日(土)～11月4日(日)

## 第2章 政局への挑戦 ～国を変えようとした人びと～

1853年（嘉永6）の「黒船来航」をきっかけとする日本の開国は、約250年間続いてきた徳川幕府の政治に大きな波紋を投げかけました。いったんは西洋諸国の要求を受け入れ、外国との交易によって日本の国力を増強していくべきだと考える「開国」派と、今すぐに外国を打ち払い、日本の独自性を保つべきと考える「攘夷」派が対立し、大きな議論を巻き起こしていきました。加えて、孝明天皇を中心とする朝廷が「攘夷」派を支持したことにより、政治はいつそう混迷を深めていくことになります。

この状況の中、福井藩主松平春嶽（慶永）は、御三家の一つである水戸藩主徳川斉昭や、薩摩藩主島津斉彬ら有志大名と連携し、英明の誉が高い一橋慶喜を次期将軍に推す一橋派の首班として積極的に政治運動を行いました。春嶽らの目的は、慶喜のリーダーシップの下で有志大名が幕政に参加し、幕府を強力な指導力を発揮できるような体制へと作り変えることにありました。こうした春嶽らの構想を実現すべく活動したのが、春嶽の懐刀として絶大な信頼を寄せられていた橋本左内であり、そして高位の公家である鷹司家と太いパイプを持つ三国出身の儒学者三国幽眠でした。

しかし、南紀派の彦根藩主井伊直弼が幕府の大老に就任し、次期将軍が紀州藩主徳川慶福に決まったことで、春嶽ら一橋派は政争に敗れました。そして、安政の大獄により、福井藩は橋本左内を失うなど、大きな打撃を受けることになります。



みくに龍翔館蔵

みくに ゆうみん  
三国 幽眠

1810(文化7)～1896(明治29)

京都で活躍した三国出身の儒学者



まつだいら しゅんがく  
松平 春嶽

1828(文政11)～1890(明治23)

幕末福井の英明な指導者



はしもと さなおい  
橋本 左内

1834(天保5)～1859(安政6)

幕末の福井藩が誇る俊才

## 番外編 福井藩と関わった幕末の偉人たち

福井藩は、松平春嶽を中心として常に幕末政治の表舞台に立っていたこともあり、幕府や朝廷、そして他藩に至るまで非常に多くの人物と交流していました。その中でも特に福井藩とつながりがあるのが、薩摩藩士西郷隆盛と、幕臣勝海舟です。

西郷隆盛は橋本左内と連携し、一橋慶喜を将軍にするための政治運動を行いました。隆盛は左内よりも6歳年長でしたが、左内の見識には一目置いていたようです。明治10年（1877）、西南戦争に敗れた隆盛が鹿児島島の城山で自ら命を絶ったとき、その懐には左内が隆盛に宛てた書簡があったというエピソードが伝わっています。

勝海舟は、文久2年（1862）に松平春嶽が幕府の政事総裁職に就任して幕府の改革を始めたとき、その賛同者となりました。以後、海舟は春嶽や横井小楠と緊密に連絡を取り合い、自らが理想とする海軍の建設を進めていくことになります。海舟と福井藩との繋がりにより、坂本龍馬をはじめとした志士たちの多くが福井藩を頼りにしていました。



近代日本人の肖像(国立国会図書館蔵)

さいごう たかもり  
西郷 隆盛

1827(文政10)～1877(明治10)

混迷する日本を導いた維新の三傑



かつ かいしゅう  
勝 海舟

1823(文政6)～1899(明治32)

江戸城無血開城に尽力した幕府政治家

## 第3章 産業化と国際化 ～世界に足を踏み出した人びと～

日本の開国は、それまで遠い存在であった海外の国々をより身近なものにしました。幕府に加え、薩摩藩・長州藩などの雄藩は、貿易を通じて積極的に西洋の文物を受け入れると共に、多くの留学生を海外に送り込みました。その過程で、西洋諸国の力の源泉が、産業革命をきっかけに進んだ産業化と、蒸気船による国際的な流通網を背景としていることが、次第に認識されていくようになります。福井藩でも、安政4年（1857）年に藩の方針を開国論と定め、翌5年には横井小楠を招へいたことで、海外諸国との貿易や留学生の派遣といった積極的な政策を次々と打ち出していきました。

特に由利公正（三岡八郎）は、藩の富国策を実行する「制産方」の頭取として、海外貿易の窓口である長崎や横浜に藩から持ち込んだ生糸や醤油を販売する拠点を築くなど、小楠の理論を実行に移す役割を果たしました。また、佐々木長淳（権六）は、福井藩唯一の軍事官僚として頭角を表し、銃砲・造船・航海術・火薬など多分野で成果を挙げました。維新後は紡績の専門家となり、内務卿大久保利通の下で群馬県に新町紡績所を建設するよう建言し、その実行を任されました。

また、福井藩は海外留学生として日下部太郎（八木八十八）をアメリカのラトガース大学へ送り出しています。太郎は肺結核によりアメリカの地で亡くなりますが、ラトガース大学で太郎と親交のあったグリフィスが藩校明新館の教員として着任し、福井で当時最先端の化学知識を教えていました。



ゆり きみまさ  
由利 公正

1829(文政12)～1909(明治42)

福井と国を動かした財政家



ささき ながあつ  
佐々木 長淳

1830(文政13)～1916(大正5)

軍事から紡績まで幅広く活躍した西洋通



くさかべ たろう  
日下部 太郎

1845(弘化2)～1870(明治3)

福井藩で初めての海外留学生



W. E. グリフィス

1843～1928

明治日本を見つめたお雇い外国人教師



松平春嶽筆「我無才略云々」の書幅(福井市春嶽公記念文庫)



波頭鯉蒔絵硯箱(福井市春嶽公記念文庫)